



退任総代への感謝状贈呈（令和6年3月24日・順慶寺本堂にて）

今月の一枚

順慶寺だより



印刷・発行 順慶寺
2024年(令和6年)

4月号

VOL.366

◆◆ 退任役員への感謝状 ◆◆

順慶寺護寺会では、総代役員は三年で必ず交代することになっている。これは、護寺会設立時、総代OBを多く輩出することで、順慶寺の内容を知る人を増やすことを目指した、当時の護寺会長・小林弘氏の提案によるもの。総代退任時には、重任を基本としている責任役員から感謝状が贈呈される。

◆ 怨みは繰り返す ◆

今月の釈尊の言葉は、『ダンマバダ』より、

「他人に苦痛を与えることによって、

自らの楽を望む者は、

怨みの繰り返しに取り憑かれ、

怨みから解放されない。」(第二九一偈)

からの出典です。

この一節は、寺報でも既に取り扱った、有名な言葉、「怨みは怨みによって消えることはない。怨みは怨みを捨てることによってこそ消える」

(第五偈)とよく対比される一節です。

今回のところは、祇園精舎のある①舎衛国のバンドウプラという村でのひとこまです。

村の娘が、知り合いの漁師から頂いた亀のタマゴが気に入って、毎日欲しがりましたが、近くに亀のタマゴがなく、母親は、鶏のタマゴを与えました。すると、娘は、鶏のタマゴも気に入りました。毎日母親にねだり、タマゴを食べさせてもらいました。

ところが、雌鶏はタマゴを産むたび、娘に取られるので、怨みのまま命を終えた後、雌猫に

今月の釈尊の言葉



他人を苦しめて

自らの楽を求めれば

怨みから逃れられない

◆ダンマバダ(法句経)
第二九一偈より

怨みは断ち切れるものではなく輪廻する。釈尊は、輪廻を断ち切るには、怨みを捨てることだと言った。



若院のテーマカット NO.59



生まれ変わりました。娘は、毎日タマゴを頂いて喜んでいましたが、長生きはできずやがて雌鶏に生まれ変わりました。

すると、雌猫は雌鶏の産むタマゴを食べ、雌鶏は怨みのまま雌猫に食べられて命を終え、雌猫に生まれ変わりました。一方の雌猫は満足でしたが、今度は肉食でない雌鹿に生まれ変わっていききました。

案の定、雌豹は、雌鹿を襲い食べてしまい、雌鹿は、怨みの中で、…と輪廻は繰り返されました。それを見て、釈尊は、怨みは怨みで消えるこ

とはない、怨みは繰り返すのだと、教えていかれたと言います。

「昨日、ウクライナ戦争、ガザ戦争など怨みが怨みを呼ぶ連鎖が続いており、今後も力による制圧は、ダンマパダが教える通り、根本的な解決には至りません。他人に苦痛を与えることは、まわりまわって自分に苦痛として返ってくることを忘れてはなりません。」

◇口の中に斧が生じている◇

『②スッタニパータ』という経典には、「人が生まれたときには、実に口の中に斧が生じている。愚かな者は、悪口を言つて、その斧によって自分を切り裂くのである。」(六五七偈)

「という釈尊の有名な言葉が残っています。」

私たちは、自分の言ったことや行ったことが、その場で問題なければ大

①【舎衛國】

梵名シユラウヴァステイーの音写。釈尊在世の頃の中インドにあったコーサラ国の首都(現在のサヘート・マヘートの地と推定される)。祇園精舎は、この城西にあり、釈尊は二十五回の雨安居をこの地で送られたといわれている。(Wikiaより)

②【スッタニパータ】

セイロン(スリランカ)に伝えられた、いわゆる南伝仏教のパーリ語経典(原

丈夫だと勘違いし、陰口で人を貶めたり、隠れて悪いことをしてしまうことがあります。しかし、そうした隠れて行った行為が、時として人を深く傷つけ、怨みをもって後戻りのできない事態に陥り、結局、自他を深く傷つけていきます。これが、釈尊の教える「口の中に斧が生じている」という事なのでしょう。

これではダメだと頭では分かっても、次々と湧き出てくる煩悩のために、次の瞬間には痛みを忘れて同じ事を繰り返す。これが、煩悩熾盛の凡夫ということなのでしょう。

「弥陀の本願には老少善悪のひとをえられず。罪悪深重煩悩熾盛の衆生をたすけんがための願にまします。」(歎異抄第一条)

煩悩熾盛の凡夫に心を痛める、阿弥陀の深いお心に頭が下がります。

始仏典)の下部に収録された経のこと。「スッタ」はパーリ語で「経」の意。「ニパータ」は「集まり」の意、あわせて「経集」の意となる。全体は五章からなるが、古来漢訳がないため、日本には伝来しなかった。「ダンマパダ」は初学者が学ぶ入門用テキストであるのに対し、『スッタニパータ』はかなり高度な内容を含んでいるため、必ずしも一般向けではない。(Wikipediaより)



春の順慶寺の大法要は、蓮如さんですが、他のお寺さんのように、春の永代経はしないのですか?

そうですね。順慶寺では、昔から4月に蓮如さんの祥月命日として、蓮師会を勤めています。今でも、蓮如さんと報恩講は同じ規模で勤めているので、その昔、報恩講を一週間勤めていたころには、蓮師会も蓮如さんのご命日の4月25日までの一週間勤めていたそうです。

順慶寺で蓮如さんが盛大に勤められるのは、室町時代末期の一向一揆の時代に、蓮如上人の寿像を渡邊・石川・蜂谷の三武士から預かったからです。大変珍しい蓮如上人のお姿を受けたことで、一揆後の弾圧のなか、大切にお敬いをしなくてははいけないと、門徒が団結したのでした。今でも、順慶寺の蓮如上人の御厨子には、渡邊家の家紋が飾ってあります。

ところで、お尋ねの春の永代経ですが、私が覚えているのは、昭和五十年代までは勤めていました。多くのお寺では、春と秋のお彼岸のころに、お彼岸勤めを兼ねて永代経と勤めていますが、順慶寺では、昔から秋の永代経を大きく勤め、春の永代経は内勤めで行っていました。おそらく、4月になるとすぐに蓮師会を盛大に勤めるので、春の永代経は控えめにしていたのだと思います。

やがて平成になるころには、春の永代経は取りやめになりました。

お寺とともに

「雨のち晴れ」

三月に入ってから、雨の日が続きました。草木が芽吹くこの季節、もちろん雨も必要とわかってはいるのですが、毎日雨がが続くと、どうも気持ちが減入ってしまい、調子もあがりません。冬の間、わりと元気にしていた室内の観葉植物も、この三月の長雨で室内も低温となるためか、弱ってしまいました。

とはいえ、やまない雨はありません。雨のち晴れとなった久しぶりの陽の光は、ことのほかありがたいもので、雨で木々の葉っぱなどが散らかった境内のお掃除をする背中を押してくれます。

今年も四月には恒例のタケノコ掘りを控え、沢山の人でにぎわいます。「雨後の筍」ならぬ「雨後の雑草」についたため息が出てしまいますが、雨にめげず、今年も雨間にひよっこ顔を出す太陽の光をたくさん浴びて、張り切っていきたいです。



《第四十八回 比べるといふこと》

先日、「普段から人を見下している」と、いざ自分が失敗すると今度は自分が見下されるところで無駄に苦しむ」という話を聞きました。人と比べて、劣っている・優れているという見方で生きかされます。

令和六年度 護寺役員年番会開催

さる、3月24日、4月から始まる令和6年度を前に、順慶寺にて令和6年度護寺役員年番会が開催され、およそ七十名の役員が本堂に集まりました。

新役員予定者は、下図の通りです。総代役員の交代は、平松組、来迎寺組、一里山組、近崎組の四地区。年番は、泉田・今川地区の年番はすべて交代となっています。

また、会議では、令和5年度の護寺会行事報告と会計報告がなされ、その後、令和6年度護寺会事業についての説明がありました。

令和6年度は、昨年5月よりコロナに関する規制がなくなったことから、令和元年以前の体制に戻し、大要はすべて午前午後の日程にし、お齋や抹茶接待も実施することとしました。また、4月にはタケノコ掘りと花祭り・誕生児初参り式、6月には護寺会バス旅行も実施する予定です。

また、令和5年度より新年番制度がスタートし、昨年指摘された様々な反省点を踏まえ、一層充実した年番制度の確立を目指して、各行事を執行していくこととしました。

令和6年度 順慶寺役員年番・就任予定者名簿

令和6年度(令和6年4月1日より令和7年3月31日)

Table with columns for 責任役員 (North End, Market, etc.), 門徒会役員 (Male/Female), and 高畑組 (Takahata, etc.).

(泉田・今川) ◎は年番

Table with columns for 地区 (泉田, 今川) and 役職 (総代, 執行部, 年番).

(三河・尾張)

Table with columns for 地区 (三河, 尾張) and 役職 (総代, 年番).

Table with columns for 役職 (会計, 監査役) and 役員名.

順慶寺 だけのこぼり花まつり はっまいり2024. Includes event details, dates (2024-04-14), and contact info.

編集部短信

◆惣骨塔拡張工事開始!! さる3月18日より、順慶寺南側墓地の惣骨塔の拡張工事が開始。平成23年に墓地整備を手がけた、中伊石材によって、現在の惣骨塔の二倍に拡張される。4月末日までには完成の予定。



岡川明秀氏 3月12日、岡崎教区二十一組門徒会長に順慶寺役員から岡川明秀氏(68)が選任された。任期は3年。前任の門徒会長が、長年の任を辞することを表したことから、以降は門徒会長を二十一組所属寺院で順次回していくことになり、その最初となった。

◆竹林整備に多数参加!! さる3月14日、責役の相木国男氏所有の竹林整備が実施された。参加者は二十名。タケノコ掘りは、3月28日に役員で

3月度護寺会物故者

慈尊院釋裕伸 3月12日寂 志水裕司(33)

三ツ谷 志水富夫様の次男

精鑑院釋博広 3月24日寂 武本 博(93)

東海市 武本泰造様の父

釋佳樹 3月24日寂 相木佳義(90)

北尾組 相木正則様の父

釋尼純那 3月26日寂 相木なみ子(88)

北尾組 皆川真奈美様の母

試し掘りが実施された後、4月14日には盛大にタケノコ掘り大会が企画されている。

編集雑記

3月、久しぶりに責役の竹林整備に参加させていただきました。いつもタケノコを掘らせていただいている竹林ですが、葉っぱのついた竹を竹林から出すのも大変、竹を畑で燃やすのも熱くて大変ですが、愚痴一つこぼさず総代OBの皆さんが作業して下さいました。今年は、若院を含む若手が二人参加しましたが、OBの皆さんが、感謝しながら作業することを肌で教えて下さったことに、心から感動しました。(住)

三寒四温という言葉の如く寒い日が段々とまばらになってきました。季節柄春の野菜をいただくのですが、春野菜特有の苦味を味わうと春がやってきたなあと感じます。(若)



4月の主な行事予定

日	曜	行事内容	掃除当番
1	月	(有志)寺カフェ(9:00～、順慶寺南落間他) お楽しみ会(14:00～、順慶寺)	
2	火		
3	水		
4	木		木-1
5	金	むつみ会総会(10:00～、順慶寺) 富士松真宗教団春季講座(13:30～、東境町泉正寺) 蓮師会事前連絡会(19:00～、順慶寺)	
6	土		
7	日		
8	月	四役会(17:00～、順慶寺)	
9	火	男女助音講(16:00～、順慶寺本堂)	
10	水		
11	木	教化予算委員会(13:30～、順慶寺玄関)	木-2
12	金		
13	土	最高顧問会議(18:00～、順慶寺玄関)	
14	日	タケノコ掘りと花祭り(9:00～、順慶寺集合) 誕生児初参り式(11:00～、順慶寺本堂)	

15	月		
16	火		
17	水	男女助音講(16:00～、順慶寺本堂)	
18	木		木-3
19	金		
20	土	おみがき・大掃除(8:30～、順慶寺)	
21	日	花立て(8:30～、順慶寺) 真宗講座(16:00～、順慶寺)	
22	月	お荘厳(8:30～、順慶寺)	
23	火		
24	水	蓮師会・護寺会総会	
25	木		木-4
26	金	五ヶ寺対抗ゴルフ大会	
27	土		
28	日	宗祖聖人御命日(7:00、順慶寺本堂)	
29	月		昭和の日
30	火		
5/1	木	(有志)寺カフェ(9:00～、順慶寺南落間他)	
5/2	金		

4月行事内容 詳細

タケノコ掘り大会・花祭り
誕生児初参り式

4月14日(日)

タケノコ掘り大会 午前9時順慶寺集合
花祭り 午前10時半から

誕生児初参り式 午前11時から

今年も、タケノコ掘り大会の当日、花祭りを実施します。また、その後、令和五年に誕生されたお子さんの誕生児初参り式を昨年引き続き実施いたします。詳細は、各戸に配布されるチラシ(三頁に掲載)をご覧ください。

蓮師会・護寺会総会

4月23日(火)・24日(水)

午前10時・午後1時 順慶寺本堂

法話 23日 農楽寺住職 瀧義範氏
24日 蓮師会住職 青木馨氏

本年も、順慶寺二大法要の一つ、蓮師会を厳修いたします。また、同日護寺会総会、護寺会員追弔会も開催する予定です。
昨年は午前みの法要でしたが、本年からは、令和元年のコロナ禍以前の形に戻し、午前午後の法要で、お斎や抹茶接待も実施いたします。
護寺会員の皆さまには、別途案内状を配布いたします。

お知らせ

●誕生児初参り式について

令和五年に誕生されたお子さんに対する初参り式が上記のように4月14日に開催されます。該当されるお子さんのある方は、4月5日までに順慶寺に申し出てください。

●護寺会バス旅行について

来る6月27日(木)、護寺会バス旅行がコロナ禍の休止を経て4年ぶりに企画されました。目的地は、大河ドラマ「光る君へ」

の紫式部ゆかりの石山寺ほか。募集は、バス二台九十名。詳細及び申込は、四月の護寺会総会で説明いたします。

●富士松真宗教団・春季講座について

4月5日、富士松真宗教団では、公開講座形式で春季講座が東境町泉正寺様にて開催されます。講師は、大谷高校宗教科講師・平原晃宗氏。参加費用は、お賽銭として五百円程度。どなたでも参加できます。

じゅんこのときめき歳時記 わらびもち

ゼたり、甘い糖蜜をかけて食べたりすると美味しいし、冷やして食べると美味しいので、暑い時のものかと思っていたら、実は、ワラビが旬なる、四月から五月が旬でした。

ただいまと

仏壇に先づ 蕨餅

綿谷美那

みなさん、今年は三月が寒かったですね。体調は大丈夫でしょうか。去年が早咲きだった桜の開花も、今年は例年並みになるようです。
毎年四月になると、近くの堤防でワラビが獲れたとって届けてくださる方がありました。ワラビは、おひたしにしたりすると、ほろ苦い春の味がして、小さいころは少し苦手でしたが、今は大好きです。
ワラビの根から、澱粉をとって作るのがわらび餅と聞きました。このごろは、担い手不足から、ワラビの根から澱粉をとることが少なくなってきたそうです。それでも、きなこを混

